

大原高等学校勝浦若潮キャンパス跡地活用基本計画【概要版】

平成28年6月

1 目的

千葉県立勝浦若潮高等学校は、統合により平成27年4月から大原高等学校勝浦若潮キャンパスとして利用されていますが、平成29年3月をもって閉校が予定されています。

閉校後の勝浦若潮キャンパス跡地（以下、跡地）は、約35,000㎡の敷地を有し、この広大な跡地を千葉県から購入し、活用することは勝浦市の地方創生の促進と地域振興を図る上で非常に重要であることから、跡地及び市の現状把握、上位関連計画での位置づけ、市民の意向など本市の将来に向けた課題解決の観点から跡地活用について検討し、基本計画を策定しました。

2 跡地活用に向けた基本的な考え方の整理

跡地活用に向けた基本的な考え方を次のとおりとします。

(1)千葉県立大原高等学校若潮キャンパスの現況

- ①漁港に根ざした水産高校として独自の個性と歴史もつ高校
- ②校舎は耐震補強がなされており、継続的に活用可能
- ③防災マップにおいて避難所・避難場所に位置づけられている
- ④旧国道128号（現市道墨名・部原線）に接する交通利便性の高い地区

(2)勝浦市の現状

- ①人口減少・少子高齢化・地域活力の低下
- ②就業者数の減少、賑わいの低下
- ③家庭日用品、食料品の市内購買率は4割であり、6割が市外に依存している
- ④公共公益施設は、新耐震基準の施設が少ない
- ⑤課題となっている古民具、遺物等の保管場所の確保

(3)上位関連計画及び市民意向

- ①住む場所について重視する点「仕事」37%「買い物の利便性」32%
- ②勝浦市が住みにくかった点「仕事がない」74%
「買い物をする店が少ない・遠い」61%
- ③取り組むべき移住・定住施策「就職・求人情報の提供の充実」57%
「出産や子育て等に対する各種支援の充実」44%

(4)まとめ

千葉県立大原高等学校勝浦若潮キャンパスの現況、勝浦市の現状、上位関連計画及び市民意向の内容から、跡地の活用は公共公益施設の再整備、雇用の確保、子育て環境の充実、市民交流の充実を図る上でも非常に重要であり、平成31年3月開園予定の認定子ども園整備に係る、現中央保育所の仮園舎としての活用、また平坦地の少ない市街地における一団の土地として、跡地グラウンドへの商業施設を誘致することで、市の抱える諸問題を解決する貴重な財産と踏まえ、跡地活用に向けた基本的な考え方を以下のとおりとします。

①勝浦市の喫緊の課題である、公共施設の老朽化対策・防災機能の強化に資する活用を図る。

②地方創生に資する活用を図る。

③千葉県立大原高等学校勝浦若潮キャンパスの特性を活かした活用を図る。

3 基本方針

- (1)公共施設を集約するにあたっての移転先と教育文化の推進に向けた施設としての活用
- (2)産業振興、地域の雇用の場となる、商業施設の誘致
- (3)健康増進・子育て支援に向けた活用
- (4)地域の交流・地域振興の促進に向けた活用

4 整備コンセプト・イメージ図

健康と文化の創造・交流施設 ～ 健康文化創生センター(仮) ～



5 整備に向けた課題の整理

- (1)関係機関、地元住民との協議・調整
- (2)事業手法の検討・決定
- (3)用途地域の変更検討